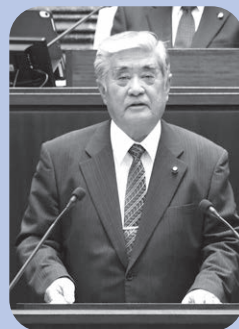


西条自民
クラブ

楠 學議員



- (代表質問)
- 1 令和4年度の施政方針及び当初予算について
 - 2 アサヒビール四国工場の操業終了について

実現しよう！

持続可能な西条市

問 新型コロナウイルス感染症の影響や、高病原性鳥インフルエンザの発生など、市制施行以来、本市はこれまでに見えない大きな試練に直面していると言っても過言ではない。また、財政状況は依然として厳しく、将来に向けての課題が山積していることから、20年30年先を見越した中長期的な視点による

行財政運営が求められている。

市長は、施政方針において、令和4年度のキャッチフレーズを「NO PAIN、NO GAIN（勇往邁進）」と掲げ、市民とともに「持続可能な西条市」という目標に向かい突き進むと述べたが、そのためには、市民一人一人の行動が重要であり、限られた資源を生かしてどのような未来を実現するのかというビジョンを市民と共有することが不可欠である。

また「本市は国の方針より以前に未来予測をし、持続化に向けた取組を推進してきた先進自治体である」とも述べているが、具体的には未来をどう予測し、持続化に向けてどのように取り組むのか。

答

未来予測については、令和元年度に、本市の自治政策研究所で人口推計及び動態の詳細分析を行った上で、得られたデータを基準に高齢者福祉、学校教育、地域社会、産業の4分野について予測しており、その結果を令和2年2月策定の第2期西条市総合計画後期基本計画に盛

り込んでいる。

このことにより、現実を見据えた危機感を市民と共有することが可能になるとともに、国や全国の地方自治体で注目されている、証拠に基づく政策立案の礎を築くことができた。しかし、後ろ向きなシナリオを、どう前向きなシナリオに転換するかというビジョンが描き切れなかったという課題が残った。

そこで持続化という視点から、本市の政策と方向性・親和性が高く、世界的に広がりを見せるSDGsに着目し「みんなで実現しよう！持続可能な西条市」をキャッチフ

レーズに定め、自治体SDGsに取り組む姿勢を明確にし、令和3年5月にSDGs未来都市に選定された。また、公民連携による推進体制の必要性から、令和4年1月、民間企業などと西条市SDGs推進協議会を設立している。

今後は、協議会を設立する過程で明らかになった課題について、公民連携による事業推進ワーキンググループを協議会内に設置することとしており、活動が本格化すること、行政だけでは手が届きにくかった地域の持続化に向けた課題解消につながるものと期待している。



3月に開催された西条市SDGs推進協議会キックオフシンポジウム

佐伯利彦議員



- (一般質問)
- 1 みどりの食料システム戦略とオーガニック給食について
 - 2 「2, 4, 5-I-T剤」の埋設問題について

オーガニック給食への取組は？

取組は？

問

現在、本市の学校給食では、1日当たり約9千食を提供する中で、県内でも先駆的な地産地消の取組として、米飯給食に必要な年間約80トンの米に西条産米を使用しているが、安心・安全なオーガニック給食の第一歩として、農薬も化学肥料も減らした西条産の減農薬米を使用する考えはないのか。

また、今後のオーガニック給食の展開については、どのように考えているのか。